

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中学生の部

奥の細道
むすびの地



令和五年十月度 入賞句一覧

投句数 六百九十三句

特選

名和 よちゑ 選

妹が蜻蛉の詩をおぼえたよ

大垣市

三輪 百亜来(小六)

とんぼの種類は多く、十センチを超える鬼やんまから二センチほどの八丁とんぼまでいます。幼い妹がとんぼの詩をあんしようしたのでしようか。それとも目の前に飛んできたとんぼを見て歌を歌い出したのでしようか。誰かがきちんと教えたわけでもないのに、耳で聞いて覚えてしまったようです。感心しながら聞いているお姉さんの姿が目には浮かぶ、ほほえましい句です。

ヒガンバナ王冠の如く立っている

大垣市

中村 理人(小六)

彼岸花は、秋になると人里近く、田畑の畦や堤防などで、真っ赤な花をつけて群生します。地面から目立たぬようにスーツと茎を出したかと思うと、すごいスピードで一斉に赤く燃えるような花を開きます。色といい、形といい、その華やかさはまるで王冠のようです。彼岸花の様子をよく観察しました。

ひがん花赤いじゆうたんかぶとづか

大垣市

林 芽生(小二)

彼岸花は、墓地の近くでも見つけることから、死人花、幽霊花とも呼ばれます。かぶとづかは、関ヶ原の戦いがあったころの杭瀬川合戦で、大変勇敢に戦った野一色頼母の鎧甲を埋めた所と伝えられています。彼岸花は、ネズミやモグラなどの害を防ぐとも言われているので、戦場で戦った人たちを安らかに守っているようにも見えます。

秀逸

あきのつきたんぼのみずにすきとおる

大垣市

今村 心奏(小四)

戦争のこわさがわかる原爆忌

大垣市

大和田 悠真(小五)

くいせがわまつかにそめるひがん花

大垣市

折戸 惺奏(小二)

秋の空夕日が照らす高い雲

大垣市

小山 琉生(小五)

どんぐりが雨ふるように落ちてくる

大垣市

伊東 希実(小五)

おいかけてつかまえられたあまがえる

大垣市

にのゆ りく(小二)

友だちとふくらむ会話秋の朝

大垣市

かとう かほ(小二)

くつひもをかたくむすんで運動会

大垣市

藤野 泰生(小五)

秋祭りパレード一周とくいげに

大垣市

近藤 帆希(小五)

秋空はどこまでも青とどかない

大垣市

陸田 峻生(小二)

入選

うんどう会ぜんぶぜんりよくやりきった

大垣市

加納 旬(小二)

あきのそらあしもとてらすおつきさま

大垣市

小川 かのほ(小二)

秋空におえかきをするひこうき雲

大垣市

中村 心れい(小三)

すいとうの大きさがわりあきがきた

大垣市

須貝 梅子(小四)

あかとんぼ秋をはこんでやってきた

大垣市

山本 佳歩(小五)

バツタかな天まで飛んで無事ちやくち

大垣市

加藤 陽悠(小五)

ぼかぼかできいろがきれいくりごはん

大垣市

山根 依織(小二)

あきのかわおちばがのつてながれてく

大垣市

くわばら けい(小二)

あきうららかぞくでさんぽきもちいな

大垣市

日比野 さくら(小二)

運動会全力出して一位だぜ

大垣市

早瀬 葉皇(小二)

コオロギが鳴いて夜はよくねれる

大垣市

松岡 咲斗(小五)

みのりの秋感謝を込めていただきます

大垣市

紙本 紗希(小五)

こすもすをマスクはずしてみるさんぽ

大垣市

あだち ひまり(小二)

さそりざがきらきらひかるおほしさま

大垣市

ないとう ほのか(小二)

なみだでたうえをむいたらお月さま

大垣市

かたやま りおと(小二)

ありがとうけいろうの日にお手紙を

大垣市

小森 琴(小五)

読書の秋いっぱい読んでつかれたよ

大垣市

中村 光毅(小五)

パチパチと火の音が鳴るサンマ焼き

大垣市

川合 悠翔(小五)

金木犀風にふかれて金光る

大垣市

山本 紀咲菜(小六)

秋の空電車と並ぶ競走だ

大垣市

陸田 篤希(小五)

選者吟

ばんざいの赤子の眠り豊の秋

よちゑ



小中学生の部